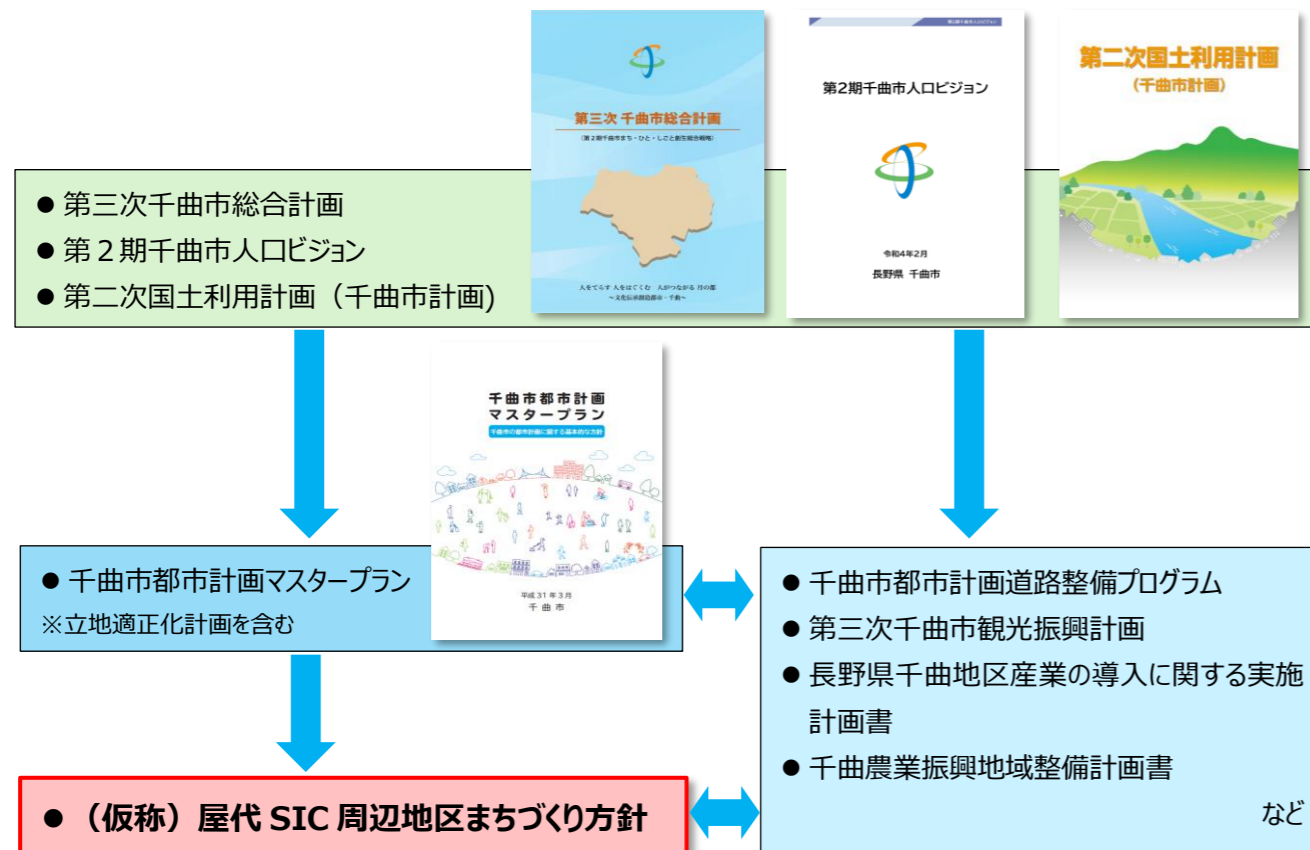


1. 背景・目的等【PI】

- 屋代SICは、令和5年9月の国土交通省の新規事業化の決定を受け、令和6年度からNEXCO東日本による現地測量が開始されたほか、屋代SICへのアクセス道路として、令和2年度から都市計画道路一重山線（市道一重山2号線）の整備に着手しています。
- また、屋代SIC周辺地区では、SICの整備に伴う開発ポテンシャルの向上が期待されることから、千曲市都市計画マスタープランにおいて「上信越自動車道西側地区」として広域交流拠点、産業拠点の整備方針等が位置付けられ、現在、公民連携のまちづくりを推進しています。
- この検討は、屋代SIC周辺地区における計画的な土地利用の誘導と道路交通網の整備を図り、市内全域が効果を楽しめる魅力的なまちづくりとするため、専門家やステークホルダーの意見等を踏まえ、「(仮称) 屋代SIC周辺地区まちづくり方針」としてとりまとめたものです。

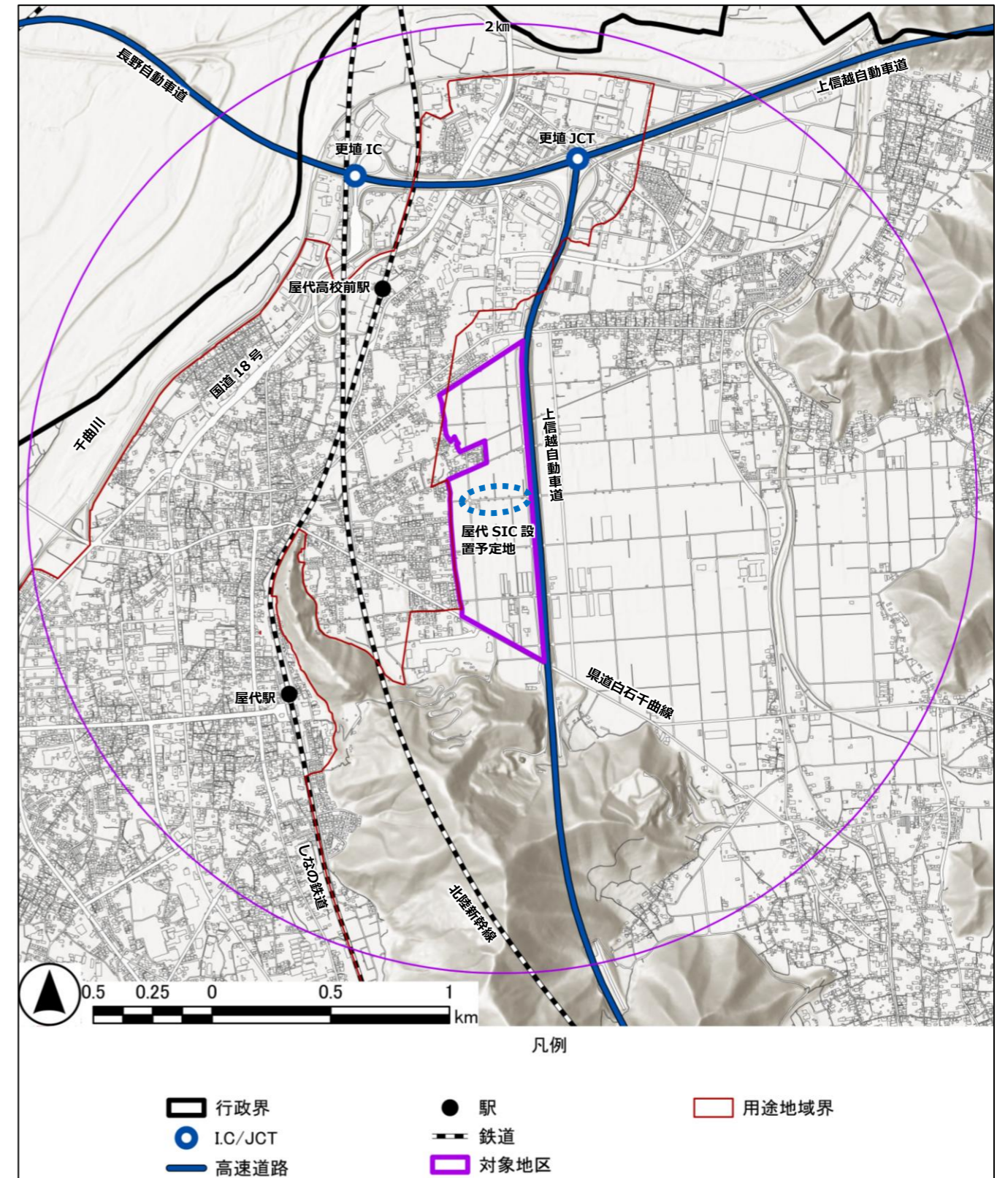
■方針の位置付け

本方針は、「第三次千曲市総合計画」や「第二次国土利用計画（千曲市計画）」、「千曲市都市計画マスタープラン」等を上位計画とするとともに、その他個別計画との連携しながら、実現に向けた取組を推進します。



■屋代SIC周辺地区の位置

屋代SIC周辺地区（対象地区）の位置を下图に示します。



## 2. 屋代SIC周辺地区の役割と将来像【P94】

- 千曲市全体及び屋代SIC周辺地区の現状や市民アンケート及び意見交換会、関係者へのヒアリング等各種調査の結果を踏まえるとともに、第三次千曲市総合計画の将来像である「人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～」につなげていくことを踏まえて屋代SIC周辺地区の役割と将来像を設定します。

### ■役割と将来像

#### 【千曲市第三次総合計画の将来像】

人をてらす 人をはぐくむ 人がつながる 月の都 ～文化伝承創造都市・千曲～

#### 【役割1】

市内の観光拠点への新たな人の流れを生み出すゲートウェイ

#### 【役割2】

既存の工業団地や事業所との連携により市内の産業集積を強化するハブ

#### 【役割3】

市民と来訪者がモノ・コトの消費を楽しめる千曲市のショーケース空間

歴史と自然に育まれた地域文化を受け継ぎ、さらに磨きながら、新たな価値を育て、人と地域が共に成長するまち

人と人が出会い、地域と地域が結び合うことで、未来を担う人と文化を創ります。そして、賑わい、学び、働き、暮らし、安心を一つにかなえます。

#### 【役割4】

「住む・働く・楽しむ」が融合する定住・移住の場

#### 【役割5】

世代と地域をつなぎ、誰もが楽しく過ごせる市民共有のリビング

#### 【役割6】

歴史環境と自然環境が融合した地域資源の体験と発信の拠点

#### 【役割7】

災害時の避難・救援・物資集配の活動拠点

## 3. 屋代SIC周辺地区の整備方針

### 土地利用の方針【P99】

屋代SIC周辺地区のまちづくりの経緯と役割を踏まえ、6つのゾーンを設定し、土地利用の方針を定めます。

#### 【商業ゾーン】

- 観光交流の拠点とするとともに、日常生活における利便性の向上と賑わいの創出に資する集客・交流施設の立地を誘導

#### 【公共文化ゾーン】

- 子どもから大人まで世代を超えて集い、学び、遊び、交流できる居場所として整備するとともに、市全体の子育て支援や暮らしの価値向上につながる施設の立地を誘導

#### 【住宅ゾーン】

- 若年層の定住やUIターン希望者の住まいとして、生活・通勤利便性が高く、自然環境や近隣の農業景観と調和のとれた快適な住宅・住環境の提供につながる施設の立地を誘導

#### 【交通拠点ゾーン】

- バスや自家用車など多様な交通機関によるアクセスと円滑な乗り継ぎを支える施設を整備するとともに、高速バス利用者や地域住民、観光客など幅広い利用者に対応する休憩・交流施設の立地を誘導

#### 【産業ゾーン】

- 若年層の定住やUIターン希望者の雇用の場となる産業施設を中心としつつ、市内の産業活動や地域産品の販路拡大に資する物流施設の立地を誘導

#### 【農業観光ゾーン】

- 農業をテーマとした体験観光プログラムの充実を図りながら、周辺の農業景観や自然環境と調和したゾーンとして形成



### 交通対策の方針【P103】

多様な移動手段に対応するとともに、脱炭素など環境負荷の抑制にも配慮した交通対策を推進します。

#### 【関連道路の整備】

- 市道一重山2号線、市道返町東西線の整備
- 屋代SICの整備に伴う側道の新設・付け替え
- 各ゾーンの開発と併せた必要な道路の整備・誘導
- 複数の交通機関が乗り入れる交通拠点の整備

#### 【公共交通】

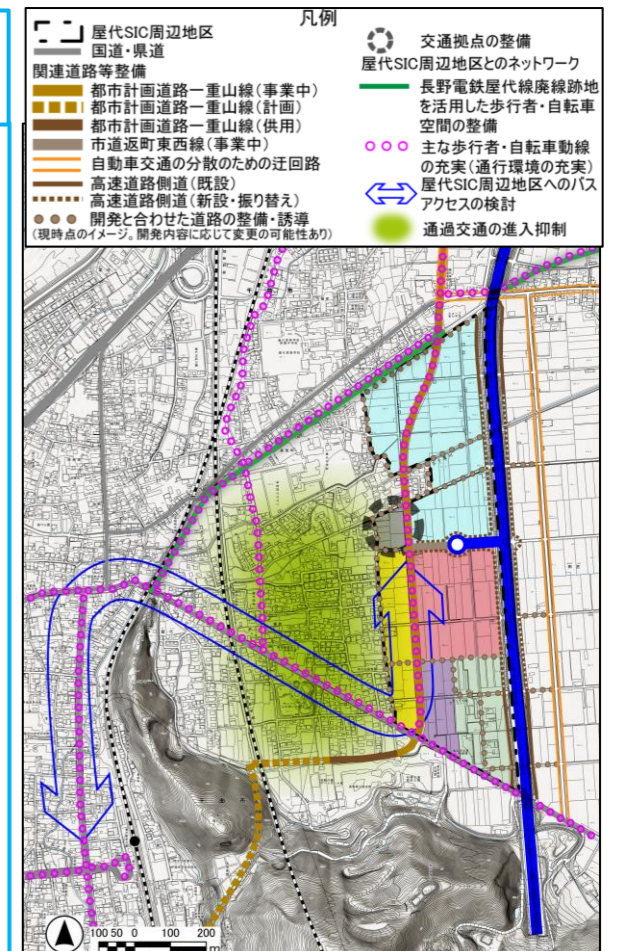
- 施設立地及び関連道路の整備の進捗と併せたバスアクセスの充実
- 高速バスと鉄道の連携の仕組みづくり
- 市内観光拠点と連絡する観光便の充実
- 通勤バスなど交通負荷の抑制に向けた取組の誘導

#### 【歩行者・自転車等】

- 長野電鉄屋代線廃線跡地の活用
- 市道一重山2号線等を活用した歩行者・自転車動線の充実
- シェアサイクルの仕組みの拡充検討
- パーソナルモビリティやスローモビリティの導入検討

#### 【開発に伴う交通流の適正化】

- 都市計画道路一重山線の整備促進
- 横町交差点での信号間隔の調整や看板等による迂回路の誘導等のソフト対策、同交差点のハード対策の検討
- 関係機関と事前対策を協議するための体制構築
- 開発敷地から車道へ出る交通量の制御
- 住宅専用系地区への通過交通の進入抑制
- 主要な生活道路での歩道整備や速度規制
- 開発後の交通量等のモニタリングと対策を検討する仕組みづくり



### 3. 屋代SIC周辺地区の整備方針

#### 緑と景観形成の方針【P105】

緑を基調とする骨格的な景観のシンボル空間の形成やゾーンの特性を踏まえた公園・オープンスペースの配置、眺望景観の確保、建築物の形態・意匠などについて一体的な誘導を図ります。

##### 【緑のシンボル軸の形成】

- 一重山2号線沿道の敷地において、緩衝となる緑地を配置することにより、緑のシンボル軸を形成
- 地区外と一体となって、市内の水と緑のネットワークを形成
- 緑のシンボル軸は森將軍塚古墳館・長野県立歴史館への導入路としても形成

##### 【緑地・オープンスペース】

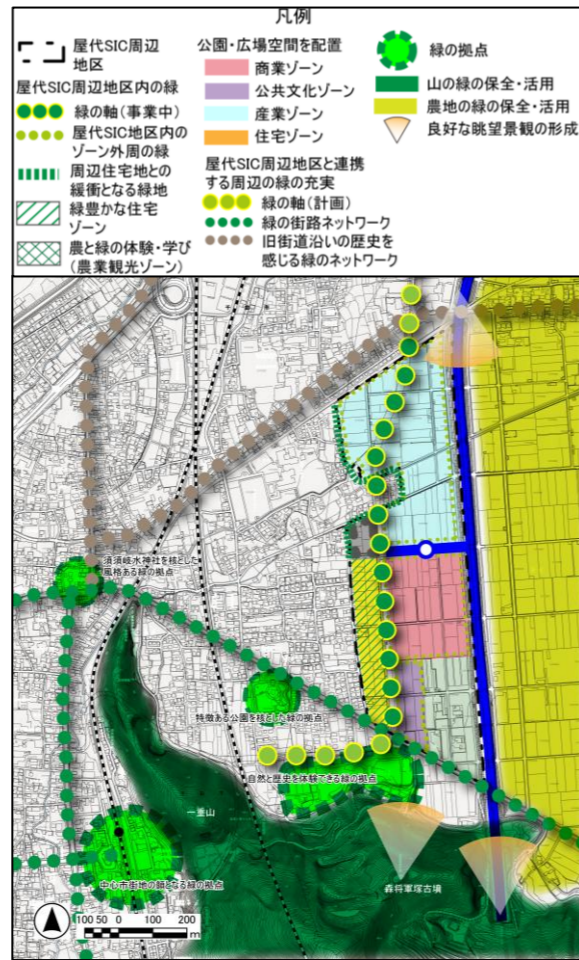
- 敷地外周では植栽により、うるおいのある空間を形成
- 住戸の緑が連続した街並みを形成するとともに、緑を感じる共有空間を創出
- 子どもの遊び場、交流やにぎわいを創出する広場空間を整備
- 既存の住宅地と接する空間に、緩衝となる公園や緑地を整備

##### 【地区を特徴づける眺望景観への配慮】

- 建築物の高さ等は、主要な眺望点からの見え方に配慮するとともに、周辺の街並みや屋代田んぼなどと調和を誘導
- SIC周辺地区から森將軍塚古墳の眺望に対しては、主要な視線の抜けを意識した建築物の高さ等の規模や配置、意匠・形態、色彩、緑地の配置を誘導

##### 【建築物の景観誘導】

- 道路境界からの壁面の後退によるゆとりある空間の確保
- 敷地のオープンスペースとバランスのとれた建築物の規模・配置
- 一重山等の緑や隣接する「科野の里歴史公園」との調和



#### 防災対策の方針【P107】

水害リスクへの備えや、広域的な交通結節点としての特性を生かした防災機能の整備、来訪者や地区外の市民も含めた新たな避難・一時滞在のための空間の提供を一体的に誘導します。

##### 【水害リスクへの対応】

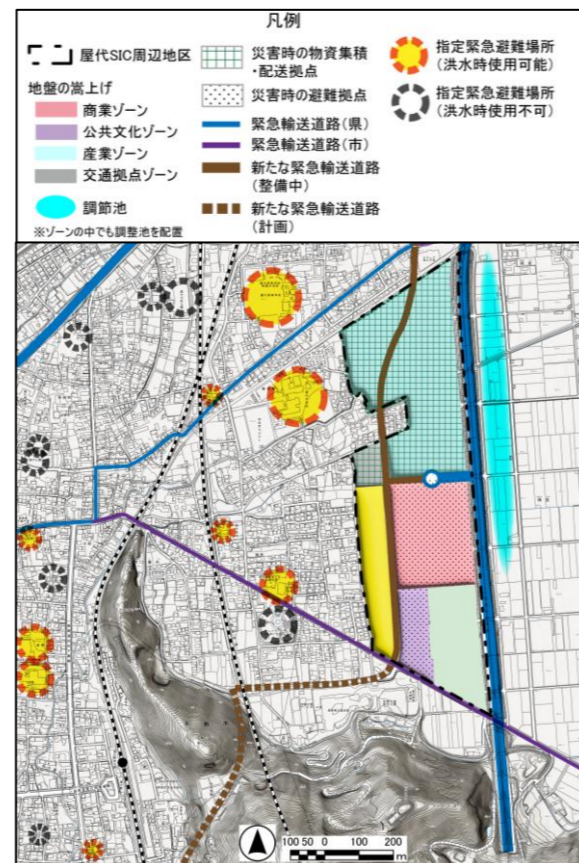
- 開発地全体を盛土で高上げし、浸水被害を軽減
- 雨水調節池の整備により、雨水流出を抑制
- 建築物における電源設備等の耐水・浸水対策を誘導

##### 【交通結節点としての特性を生かした防災機能の整備】

- 屋代SIC周辺を災害時の物資集積・輸送拠点として位置付け、救援物資搬入と配送の環境及び体制を整備
- 大規模駐車場は、物資集積・配布拠点、緊急車両待機スペース等として活用するための運用ルールを整備
- 市道一重山2号線により緊急輸送道路の代替性を強化

##### 【避難者の受け入れ環境の整備】

- 太陽光発電・蓄電システムなど、地球温暖化対策と両立した災害時の非常用電源の確保
- 商業ゾーン、公共文化ゾーン等の広域的な避難拠点として位置付け、水・食料など避難者の滞在環境を確保
- 平常時の案内システムは、災害情報や交通情報等の提供システムとして活用
- 防災関係機関や既存の避難場所と連携し、災害時の避難者や物資輸送を円滑に行える体制を確保



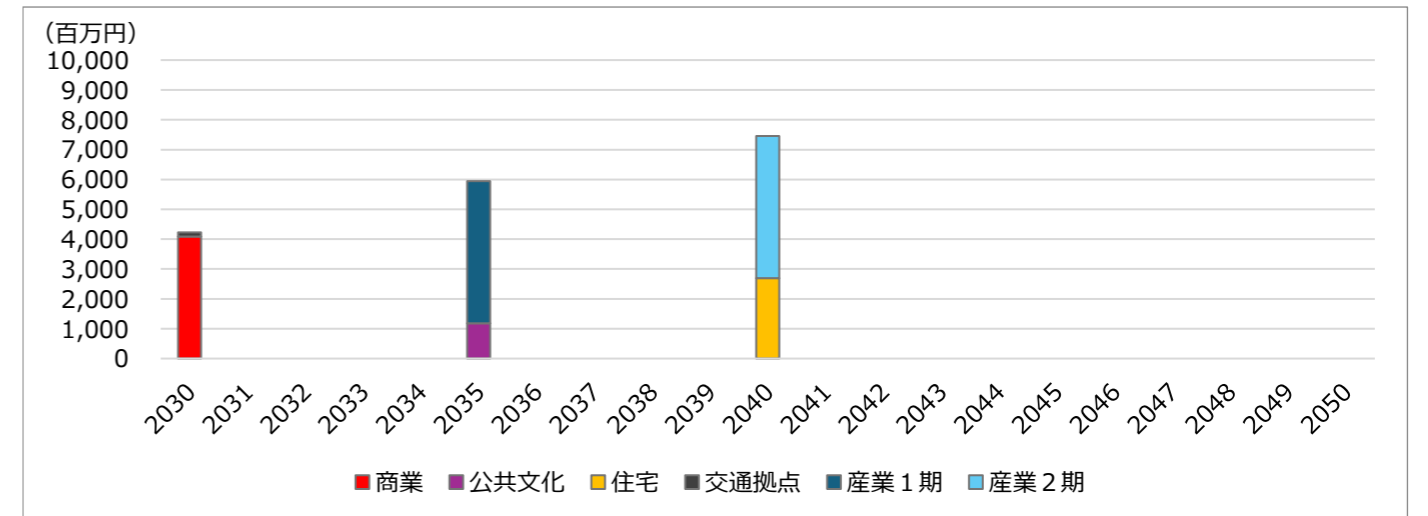
### 4. まちづくりの効果【P109】

- 各ゾーンの供用スケジュールを仮定し、ゾーンごとの経済波及効果、経済効果、雇用創出効果を試算します。
- 供用開始からの20年間で発生する経済波及効果と経済効果の合計は、約4,574億円と試算されます。
- 雇用創出効果は合計で約900人と試算されます。

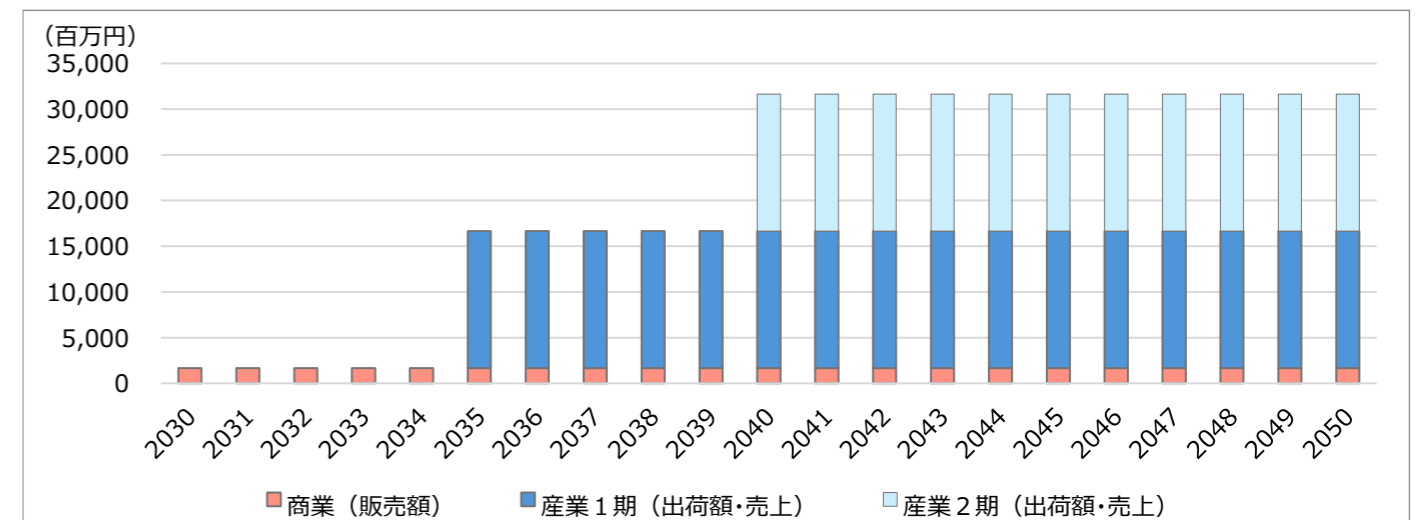
#### ■まちづくりの効果の内容

項目	内容
建設投資に伴う経済波及効果	建設工事に伴う資材の購入や働く人の増加などにより、地域での生産・雇用・消費が広がることで、一時的に地域経済を拡大する効果
商業施設及び産業施設の運営によって新たに発生する経済効果	整備された施設が営業・稼働し続けることで中長期的に地域にもたらされる経済効果(商業施設の販売額、産業施設の出荷額等)
商業施設及び産業施設の運営によって新たに発生する雇用創出効果	整備された施設が営業・稼働し続けることで、商業及び産業施設で新たに発生する雇用機会

#### ■経済波及効果の推移



#### ■経済効果の推移



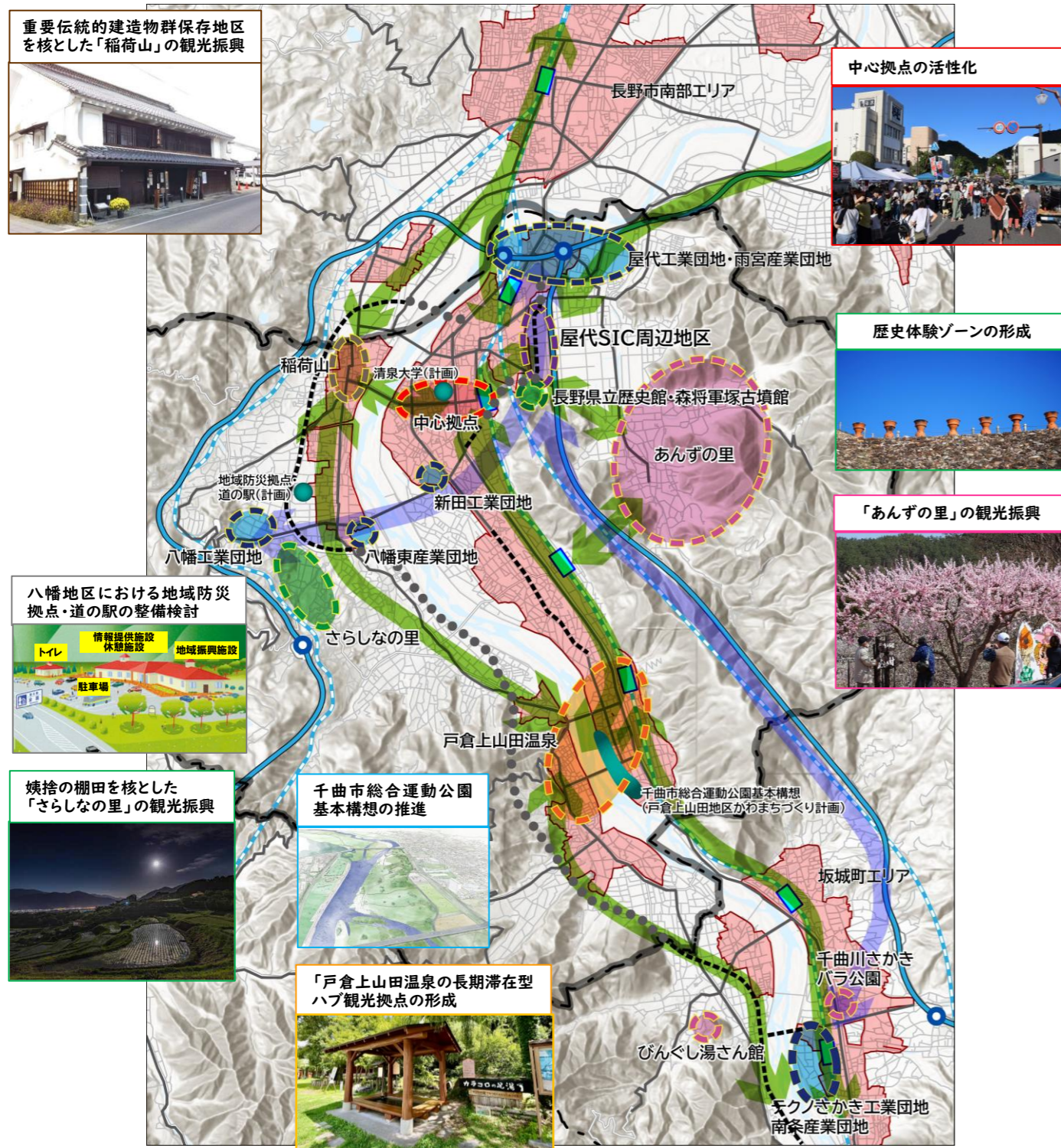
#### ■雇用創出効果の試算

ゾーン	雇用者数
商業ゾーン	約180人
産業ゾーン	約720人
合計	約900人

## 5. 屋代SIC周辺地区のまちづくりによる市内各拠点への波及と連携強化【P112】

- 屋代SIC周辺地区のまちづくりにより創出される人の流れや交流・経済効果を市内各拠点へ波及することが期待されます。その効果を市内各拠点に広げていくため、屋代SIC周辺地区と相互に連携し、市内各拠点の機能や魅力の充実を図ります。
- 各拠点の連携を通じて、市内全域で観光・交流の振興を図るため、連携を支える道路ネットワークや公共交通の充実など、移動環境の整備を図るとともに、特に、市内の主要な産業集積地や観光拠点を連絡する都市計画道路一重山線は、屋代SIC周辺地区のまちづくりを市内全域へ波及させる上で整備促進が求められます。
- 上信越自動車道と長野自動車道等の広域道路で結ばれた千曲市、長野市南部エリア、坂城町エリアを含む広域的なエリアには、魅力あふれる観光拠点や地域をけん引する産業・工業団地が点在することから、これらの連携を強化するための交通ネットワークの強化や仕組みづくりを進めます。

### ■屋代SIC周辺地区と各拠点との連携イメージ



## 6. まちづくりの推進体制【P115】

- 屋代SIC周辺地区のまちづくりには、一定の期間を要するとともに、多様な主体が関わることから、相互に連携して将来像を実現するための推進体制を構築します。

### 【庁内関係部署及び関係機関との連携による整備推進】

- 本計画の実現に向けては、都市計画や道路・公共施設の整備など複数の部署が連携して対応する必要があるため、庁内横断的な協議・調整を進めるとともに、関連計画等との整合を確保します。
- 道路管理者（国、長野県、千曲市、NEXCO東日本）、運行管理者（国、長野県警察、交通事業者）など関係機関との連携により、各ゾーンの整備、誘導に関して調整、推進します。

### 【開発（まちづくり）を担う民間事業者との連携による魅力ある商業、産業、住宅の空間形成】

- 商業ゾーン、産業ゾーン、住宅ゾーンの基盤整備及び企業・居住者誘致に関しては、開発を担う民間事業者と「（仮称）屋代SICを活用した魅力あるまちづくり方針」に掲げる将来像実現に向けて協働して事業を推進します。

### 【市民、地域、企業、行政との連携・共創による「まち育て（マネジメント）」の仕組みづくり】

- 賑わいの創出や景観形成などの取組は、個々のゾーンで単独で取り組むよりも、連携することで大きな効果を生み出すことができるため、市民が連携・共創して「まちを育てる」ための仕組みの充実を図ります。
- 屋代SIC周辺地区のまちづくりを市内全域へ波及させるため、市内の拠点が相互に情報発信したり、誘客面で連携したりする仕組みを検討します。

### ■推進体制のイメージ

